

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	29人	算数	29人	理科	29人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	39人	算数	39人	理科	39人
------	----	-----	----	-----	----	-----

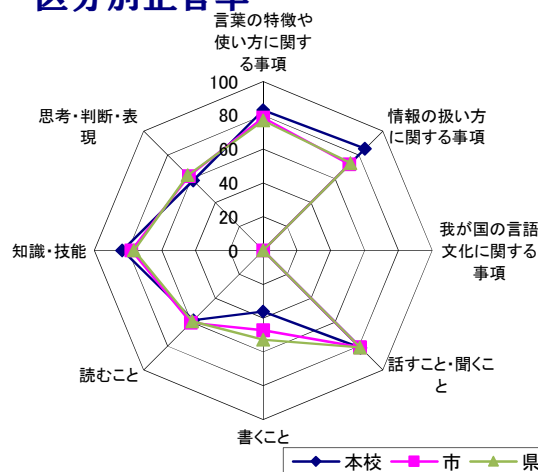
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.1	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	85.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	81.5	81.0	81.1
	書くこと	36.1	47.2	52.8
	読むこと	58.3	60.5	59.3
観点	知識・技能	83.3	78.0	76.5
	思考・判断・表現	58.6	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

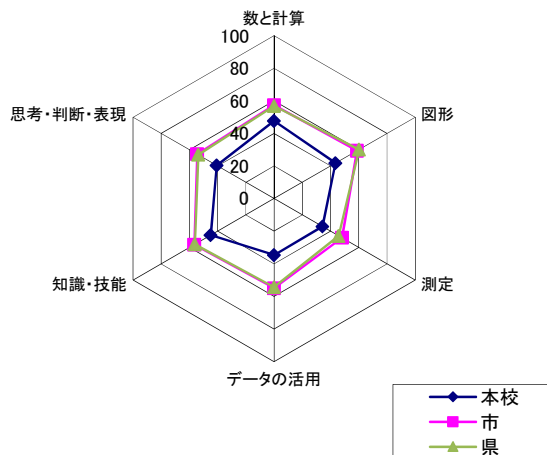
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みについての設問では、本校の正答率が市や県の平均を上回った。 ○絵を見て、台詞の空欄に適する指示する語を選ぶ設問では、本校の正答率が市や県の正答率を上回った。 ●主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ設問では、正答率が45%を下回っていた。	・漢字の読み書きについては、これまでの基礎基本の定着を図るための小テストでの確認や習熟を高めるための家庭学習の支援を続けていく。 ・日常の言葉遣いも含めて、文章における主語と述語を意識させるような声掛けを行うとともに、文章の読み取りにおいても確認する活動を取り入れていく。
情報の扱い方に関する事項	○国語辞典に載っている順番を問う設問では、正答率が市や県の平均を上回った。	・国語辞典を身近な道具として、子どもたちが自分で活用できるような環境づくりをしていく。
話すこと・聞くこと	○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問では、正答率が92.6%で市の正答率を上回った。 ●自分の考えを理由を挙げながらまとめることができるかをみる設問では、市や県の正答率を下回った。	・話し手が伝えたいことの中心を捉えることはできているので、国語科の授業において、相手の意見を基に、理由を挙げながら自分の考えを話す指導を行い、日常生活においても自分の考えを伝えることを意識させていく。
書くこと	●ロッカーの整とんを呼びかける方法について、指定された条件に合わせて文章を書く設問では、市や県の正答率を大きく下回った ●領域の「書くこと」において、無回答が多かった。	・ミニ作文や学習のまとめの記述など、日々の学習活動の中に文章を自分で構成して書く機会を増やし、個に応じた指導をしていく。 ・子どもが興味をもつテーマで文章を書く活動を取り入れることによって、楽しく書くことができるようにしていく。
読むこと	○文章中の空欄に適する言葉を選ぶ設問では、正答率が100%で市や県の正答率を大きく上回った。 ●文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く設問では、市や県の正答率を下回るとともに、無回答も多かった。	・叙述を基に文章の内容を捉えることはできていることから、説明文において情報と情報との関係について理解し、中心となる言葉や文を見付けられるよう指導を行うとともに、説明文に触れる機会を多く設定する。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.7	57.4	56.9
	図形	43.5	58.7	60.1
	測定	34.3	48.1	45.7
	データの活用	34.6	54.9	54.3
観点	知識・技能	44.9	56.6	56.2
	思考・判断・表現	40.7	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

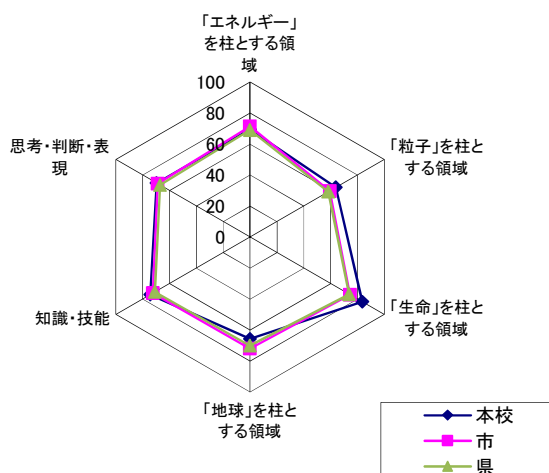
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数のしくみや表し方に関する設問では、正答率が80%を上回った。</p> <p>●2けた×1けたを計算する式を立てる設問では、市や県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・基礎基本となる既習の四則演算が身に付いていない児童もいる。朝の活動に前学年までの復習を計画的に位置付け、基礎の定着を図るとともに、今後もドリルや練習問題の取組を続けていく。</p> <p>・具体物や半具体物を操作して考える機会を設定することによって、計算方法を自ら考え活用できるような授業展開を工夫する。</p>
図形	<p>○球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ設問では、市の正答率とほぼ同じであった。</p> <p>●整数-小数第一位の設問では、市や県の正答率を大きく下回った。</p> <p>●正三角形を作図した二等辺三角形になる点を選んだりする設問では、市や県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・授業の中で、基本的な図形の定義や性質について、常に確認できるように、教室掲示などを工夫することで、児童が疑問に思ったことを解決しやすい環境を整え、粘り強く課題に取り組めるようにする。</p>
測定	<p>○時間が経過する前の時刻を求める設問では、市や県とほぼ同じ正答率だった。</p> <p>●重さに関する設問では、市や県の平均を下回っている。</p>	<p>・はかりの使い方を再度確認し、はかりを使う機会を設定することで、技能の習得を図る。</p> <p>・具体物を例に挙げながら、重さの見当をつける活動を積極的に取り入れ、回答しようとする習慣がつくよう、適宜指導する。</p>
データの活用	<p>●データの活用に関する設問では、市や県の平均を下回るとともに、無回答も多かった。</p>	<p>・与えられた情報を正しく且つ漏れなく読み取り、解答しようとする習慣がつくよう、適宜指導する。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.4	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	63.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	83.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	65.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	74.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○磁石の性質についての設問では、正答率が92.6%であり、市や県の正答率の平均を10ポイント近く上回った。</p> <p>●複数の鏡ではね返した日光を重ねて当てた場所のうち、同じ温度になる箇所を答える設問では、市と県の平均を下回った。</p>	<p>・日常生活の中で起こる事象と関連付けながら授業展開の工夫を行う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○すべての設問で、市と県の平均を上回っている。特に、実験の様子を示した図を基に、実験結果が異なった理由を選ぶ設問では、正答率が92.6%であった。</p>	<p>・授業での実験で得た結果を、日常生活に置き換えて考えたり類似場面に当てはめて比べたりすることに課題が見られる。学習したことが生きた知識となるように、科学的なものの方・考え方を使う授業展開の工夫を行う。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○すべての設問で、市と県の平均を上回っている。</p> <p>○ホウセンカが育つ順番に図を並び替える設問では、市の正答率より27.2ポイント上回っている。</p>	<p>・実験の仕方や道具の使い方についての復習を行う。学んだことを自然のきまりとして捉え、得た知識を活用しようとする場の設定を意識的に設け、授業の改善を行う。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○温度計の正しい使い方を選ぶ設問では、正答率が80%を上回った。</p> <p>●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる設問や、太陽と日陰の位置関係と日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ設問では、市と県の平均を下回っている。</p>	<p>・道具の使い方や、かげと太陽の位置に関する学習の復習が必要である。理科の授業のみならず、学校生活の中で既習内容を確認し、理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」との質問に、肯定的回答をした本校児童の割合が100%であった。家庭学習として、宿題と自主学習を両立できるよう指導しているところであり、学力向上とともに自らの強みを生かしたり興味関心を広げたりする学習も推奨し、今後も継続指導していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」との質問に、「はい」と回答した本校児童の割合が58.6%で、市の割合52.8%を上回った。毎日伸び伸びと学校生活を送り、元気に楽しく過ごす児童の姿が多く見られるが、自己肯定感の低い児童も一定数いることから、支援が必要だと考えられる。今後も家庭と連携を図って児童理解に努め、互いのよさを認め合いながら児童一人一人のよさを伸ばす指導を続けていきたい。

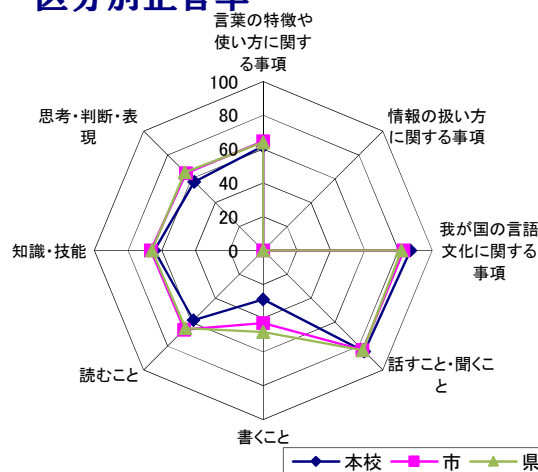
●「家で、学校の授業を復習している」「家でテストでまちがえた問題について勉強している」との設問に肯定的な解答をした本校児童の割合は、県の割合を下回っている。出された宿題は取り組むが、家庭での生活リズムの中に、学習の時間が上手に組み込めず、学習が後回しになってしまう児童がいる様子が伺える。また、「むずかしいことでも失敗をおそれないでちよう戦っている」「自分の行動や発言に自信をもっている」との質問に対する肯定的回答の割合も県の割合を下回っていることから、宿題以外に、授業やテストの復習に取り組ませることで、自信をもたせられるよう声掛けをしていきたい。

●「家でできまりや約束を守っている」との質問に肯定的回答をした本校児童の割合は、県の割合を下回っている。学校生活の様々な場面でできまりの大切さについて考えさせたり、できまりを守って生活することの気持ちよさを実感させたりして、規範意識を高めていきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	61.8	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.2	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.6	83.3	83.4
	書くこと	28.9	42.8	48.2
	読むこと	58.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	64.4	66.5	65.9
	思考・判断・表現	57.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

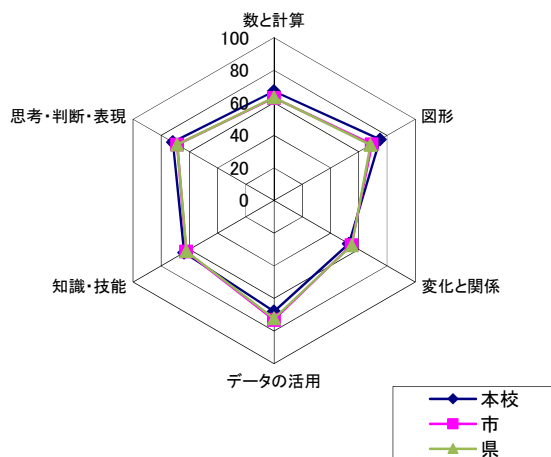
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○文を読み、気持ちを表す語句を文章の中で使うことができるかを選ぶ問題において、97.4%と高い正答率を示した。 ●平均正答率は、市の平均を下回った。 ●漢字を読んだり書いたりする問題においては、6問中3問が市の平均を下回った。	・既習漢字においては、復習を多く取り入れ定着を図る。また、生活の中でも積極的に漢字を使いこなせるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を理解しているかどうかを選ぶ問題において、87.2%と高い正答率を示し、定着していることが分かる。	・ことわざや慣用句を児童との会話の中で教師が積極的に用いることで、児童が親しみをもってその意味と使い方について理解を深めることができるようにする。
話すこと・聞くこと	○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言をもとに、考えをまとめる問題において、正答率が84.6%と市の平均を7ポイント以上上回った。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめる問題において、82.1%と市の平均を下回った。	・教師や友達の話を聞く際には、共通点や相違点に着目しながら、大切な部分を落とさずに聞けるように指導していく。また、授業中お互いに意見を伝え合う機会を設定する。
書くこと	●全体として市の平均を下回っている。特に、指定された文字数で文章を書く問題においては市の平均を大きく下回った。	・書くことの指導において、内容の中心を明確にし、自分の考えを文章に表すことができるように指導していく。
読むこと	●全体として市の平均を下回っている。特に、叙述を基に文章の内容を捉えることについては、正答率が64.1%と市の平均を大きく下回った。	・物語文を読む際には、登場人物の言葉や動作、表情などの気持ちが表れている部分に線を引くなど、細かい描写にも目を向けて読み進めることができるように指導していく。 ・説明文を読む際には、段落ごとに書かれていることを正しく読み取ると共に、段落の役割や文章構成を考えて読むように指導していく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.1	63.0	63.3
	図形	75.0	69.2	68.3
	変化と関係	53.0	54.8	55.0
	データの活用	68.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	63.8	62.3	62.1
	思考・判断・表現	71.8	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

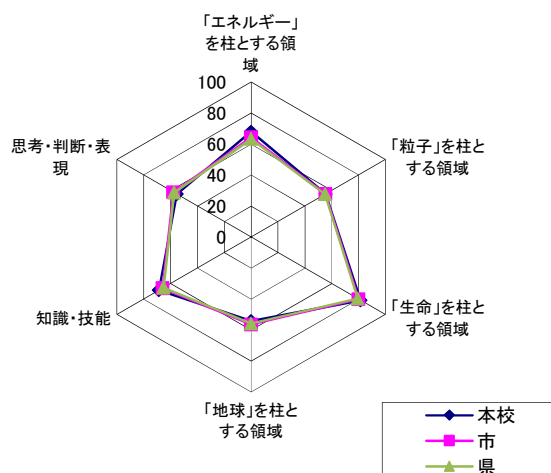
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○2けた÷2けたの除法の問題において、市の平均を17.1ポイントと大きく上回った。</p> <p>○整数-（1より小さい小数）の問題において、89.7%と市の平均を14.3ポイントと大きく上回った。</p> <p>●小数の除法の問題において、51.3%と市の平均を下回った。</p>	<p>・計算ドリルやプリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。また、間違えた問題はもう一度解く習慣を身に付けさせる。</p>
図形	<p>○全体的に市の平均を上回った。特に、立方体と直方体の違いを選ぶ問題において、94.9%と市の平均を大きく上回った。</p>	<p>・図形における基礎的な概念の理解を図るため、ドリルやプリント集、教具を活用し、今後も基礎的事項の確実な定着を図る。</p>
変化と関係	<p>●全体として市の平均を下回っている。特に、表を見て、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では、69.2%と市の平均を下回った。</p>	<p>・表の見方を確認したり、具体物を用いて考える機会を設定したりすることによって、数量の関係を式で表すことができるように授業展開を工夫する。</p>
データの活用	<p>○折れ線グラフを読み取る問題は、市の平均を約5ポイント上回った。</p> <p>●二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題では、市の平均を大きく下回った。</p>	<p>・二次元の表をもう一度確認した上で、算数のみならず、理科や社会、総合的な学習の時間に表を読み取ったり書いたりする活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	55.6	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	81.6	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	54.2	56.4	55.8
観点	知識・技能	68.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	55.4	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○回路における乾電池のつなぎ方の名称を答える問題において、82.1%と、市の平均を大きく上回った。</p> <p>●電流が流れない回路を、流れる回路に改善できるかを答える問題において、51.3%と市の平均を下回った。</p>	<p>・電流が流れる回路の条件を考え、自分たちで実験をし、問題解決の場を与える。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○水を冷やした時の温度変化について答える問題において、64.1%と市の平均を上回った。</p> <p>●湯気について理解しているかどうかをみる問題では、市の平均を20ポイント以上下回った。</p>	<p>・実験等の実感を伴った活動を行う際に、結果の考察を仲間と伝え合い、考えを深める活動をしていく。</p> <p>・学習したことを日常生活に結びつけ、身近に感じられるように指導していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○動物の越冬について調べた結果を基に、考察を導き出せるかどうかをみる問題では、92.3%と市の平均を上回った。</p> <p>●人の腕と鳥の翼の骨を観察した結果から、差異点を答える問題においては、76.9%と市の平均を下回った。</p>	<p>・生活の中で起こる事象の中から、問題を見つけ、映像や模型を用いて、動物の体の仕組みや働きについて理解できるように指導していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○星座や月の位置の変化について答える問題では、市の平均を上回った。</p> <p>●水たまりのできにくさについて、水のしみ込みやすさと関連付けて答える問題では、市の平均を11.2ポイント下回った。</p>	<p>・身近な問題について、科学的な根拠を基に答える場面を増やす。</p> <p>・日々の理科の授業で、実感を伴うように実験を行い、考察する活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の肯定的回答の割合は97.5%である。今後も、一人ひとりが過ごしやすい学級の雰囲気作りを続けていく。

○「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的回答の割合は100%であり、「学校の宿題は自分のためになっている。」の肯定的割合は97.5%と高く、家庭学習の大切さを理解している。今後も、自主学習と併せて家庭学習を充実できるように指導していく。

○「学習して身に付けたことはしょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答の割合は97.5%であり、県の平均を上回った。学習と実生活との繋がりを実感している児童が多く、今後も学習と生活との繋がりを実感できるような指導を工夫していく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定的回答の割合は県の平均を下回っている。学校の授業の復習をすることの大切さを伝え、宿題で復習問題を課す頻度を増やすとともに、自主学習の内容として復習をすることを習慣化することができるように支援していく。

宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。「算数オリンピック」等の校内検定を行い、計算の技能を高める。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」児童は5年生で74.4%となり、市の平均とほぼ同程度であるのに対し、4年生は、65.5%で、市の平均よりも約9ポイント下回っている。 各教科の知識・技能においても、4年生と5年生では習熟度に学年差が見られる。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。 互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」児童は4年生で93.1%、5年生で92.4%、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設定で肯定的回答をした割合は4年生で86.2%、5年生で76.9%である。 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設定で肯定的回答をした割合は、4年生82.7%、5年生が79.5%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では「書くこと」において課題が見られた。また、4・5年生、共に、問題を解く時間が十分でなかったとの回答が多かった。	継続的な言語活動の充実と記述力の育成。	教科横断的な言語活動を充実させることで、「自分の考え」を書くことへの抵抗感を減少させるとともに、説得力のある文章表現ができるように接続語を意識的に使う練習を行っていく。
算数では基礎基本の定着が図れていないことが分かった。また、4年生では、問題を解く時間が十分でなかったとの回答が多かった。宇都宮市の肯定的回答の割合より、24.8ポイント下回っていた。	計算力の確実な定着と単位・図形・数量関係の理解強化。	繰り返し練習と活用場面の提示を行い、単なる反復ではなく、生活や他教科と関連付けた場面での活用を行う。また、実物操作活動や図形の構成・分解活動で実感させる学習を行っていく。
家庭で計画的に自ら学習することにおいて、課題が見られる。また、復習を行っている児童の割合が、市の平均よりも少ない。	家庭学習の推進	家庭で計画的に学習が進められるよう、予習・復習や、本人にとって必要性の高い内容を助言するなど、支援していきたい。